

学生による授業評価における授業満足度を高める取り組み

—自由記述に焦点を当てて—

田 辺 尚 子

How to Enhance the Degree of Satisfaction in the English Class: Focusing on Students' Comments in the Questionnaire

Naoko TANABE

はじめに

本稿は、学生による授業評価における授業満足度を向上させるために、短期大学保育科を対象に動機づけストラテジーを活用して2006～2009年度の4年間にわたって授業改善に取り組んだ実践報告である。ここで取り上げる学生による授業評価とは、Faculty Development (FD)の一環として授業改善を目指した取り組みの一つであり、文部科学省(2010)の報告によれば、平成20年度において国立64大学(約74%)、公立59大学(約79%)、私立474大学(約81%)、国公立全体では597大学(約80%)において全学的な学生による授業評価が実施されている。また、これらの大学のうち、学生による授業評価の結果を授業改善に反映させる組織的な取り組みが行われているのは、国立83大学(約97%)、公立56大学(約75%)、私立443大学(約76%)、国公立私立全体で582大学(約78%)となっている。これらの数字は、学生の評価を基にした授業改善への取り組みが全国的な規模で行われていることを示している。ただし、桐生(2008)が指摘しているように、大学教員の中に学生による授業評価の実施方法や信頼性に対する不信感が存在していることも事実であり、授業評価が実際に授業改善に生かされているかどうかは個々の教員に一任されているというのが現実であろう。しかし、学生による授業評価が授業改善のために全学的に実施されているからには、その結果を生かした何らかの授業改善の取り組みが行われるべきである。実際問題として、前期・後期と継続して授業が行われる場合、前期末に実施した授業評価の結果が後期からの授業に全く反映されていなければ、その授業を受講している学生に失望感を与え、授業に対する動機づけにおいて返ってマイナスの結果となる危険性もある。

本学でも各学期末に全学的に実施し、全ての科目が同一の項目と条件のもとに学生によって評価され、担当科目の結果が各教員に通知されている。10項目以上ある評価項目はそれぞれの観点から授業を評価するには有効であるが、総合的に学生がその授業に満足したかどうかは、授業満足度を問う評価項目を設けて判断するのが最も適切であろう。では、その授業満足度の数値結果をもとに新たな授業改善を進めていく場合、何を手がかりにして取り組めばよいのであろうか。もちろん、個別の観点別評価項目において低く評価された項目について改善を図ることが考えられるが、既存の評価項目では映し出せないその授業の特質が存在する可能性もありうる。そのような場合のために自由記述という項目が用意されており、学生が不満として述べている事柄につ

いては改善し、また反対に、良かった点として述べている事柄をより強力に実践していくことによっても授業改善を推進していくことができる。したがって、学生による授業評価においては、観点別評価項目と授業満足度と自由記述の3点を有機的に組合せて解釈し、活用する必要がある。

本稿では、学生による授業評価をもとに授業改善に取り組んだ結果、学生の授業満足度を高めるのに最も有効であったと思われる取り組みを明らかにするとともに、本学で実施されている授業評価アンケートの評価項目について改善案を示唆する。

I. 短期大学保育科「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の概要

1. 研究対象科目「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」

本学保育科は定員150名（3クラス編成）の保育士養成課程であり、卒業後の就職率は100%（幼稚園教諭と保育士が約半数）である。言語系に属する基礎教育科目として、1年次前期に「英語コミュニケーションⅠ」、同後期に「英語コミュニケーションⅡ」、2年次前期に「英語コミュニケーションⅢ」、同後期に「英語コミュニケーションⅣ」が開講されている。このうち、1年次に開講されている2科目は卒業必修科目として全員が履修するが、2年次での2科目は選択科目であり、毎年の履修者は10人以下と極めて少ない。

本研究の対象とする科目は1年次の「英語コミュニケーションⅠ」と「英語コミュニケーションⅡ」である。これらの科目を研究対象とした理由は次の5点である。

- ① シラバスや教材を自由裁量で決定できる。
- ② 卒業必修科目なので英語が嫌い、または苦手な学生もおり、多様な動機づけの取り組みが可能である。
- ③ 保育士養成課程なので、適切な English for Specific Purposes (ESP) の導入が可能である。
- ④ クラス単位の授業なので、集団特有の動機づけの取り組みが可能である。
- ⑤ 毎年1クラス（約40名）を担当するので、同じ授業を違う学生を対象にして検証でき、クラス規模としても約40名という人数は適当である。

2. 研究対象学生

本学保育科1年生3クラスのうち、2006～2009年度に担当した1クラス（2006年度39名、2007年度38名、2008年度38名、2009年度26名）の学生を研究対象とする。保育科の学生の特徴として、他学科の学生と比較して、人とコミュニケーションをとることや、歌を歌うこと、体を動かすこと、協同作業を行うことをより好む傾向がある。

また、毎年度当初に英語に関する簡単な意識調査を行っているが、英語に対しての好き嫌いの割合は毎年ほぼ同じ結果となっている。すなわち、「好き」と「嫌い」が各15%、「どちらかと言えば好き」と「どちらかと言えば嫌い」が各35%で、「好き」と「嫌い」がほぼ半々という構成割合である。したがって、英語が好きな学生のためには短期大学での唯一の英語の授業という位置づけから、高等教育における英語の授業という期待に添えるような授業を展開していく必要があると同時に、英語が嫌いな学生への配慮や動機づけも同じくらい必要とされていると言っておくであろう。

3. 研究対象期間

研究期間は2006～2009年度の4年間であるが、これは、同じ授業でも参加学生が変われば評価も変わることがあるという山地（2007）の指摘を立証または反証するためにも好都合である。また、この4年間にはそれぞれ違った意味づけがある。初年度の2006年度は初めて担当した当該科目と保育科学生を対象に試行錯誤で実践した年。2007年度は前期に入院したために授業のペースが崩れ、授業評価の評点も低下し、それが返って授業をもう一度振り返る好機となった年。2008年度は前年の不調を取り戻すために、従来高評価であった取り組みをさらに意欲的に実践し、新たな取り組みも始めた年。2009年度は同じ取り組みではあっても、学生数が26名と約3分の2に減った中で取り組んだ年である。

4. シラバス

前期

(1) 授業の目標

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、日常生活における話題について基本的な語彙や文法を用いて、英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりできるようになる。また、保育士を目指す者として、英語学習を通して日本語と英語についての理解を深め、子ども達と適切なコミュニケーションをとるための工夫ができるようになる。

(2) 授業の概要

ディスカッションのトピックとなるような話題を含む200語程度の英文を聞いたり、読んだりした後に、内容の理解を深め、音読練習（目標は1分間に140語）をする。そして、その話題についての多様な意見を聞くことにより、自分の意見を話したり、書いたりする。また、毎回英語の童謡（振り付けあり）を1曲ずつ練習し、合計10曲をマスターする。音読と英語の歌のスキルアップのためにDVDを用いた発音演習も行う。なお、リスニング力養成のため、授業の大半（60～80%）を英語で行う。

(3) 到達目標（観点別行動目標）

1. 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
2. 日常生活における話題についての200語程度の英文を聞いたり、読んだりして、概要や要点が理解できる。
3. 日常生活における話題についての200語程度の英文を、1分間に140語程度の速さで、聞き手に意図が伝わるように音読できる。
4. 日常生活における話題についての多様な意見を聞き、基本的な語彙や文法を用いて自分の考えを話したり、書いたりできる。
5. 英語の童謡10曲を振り付けをしながら人前で歌える。

(4) 授業計画

| | 教科書 | 自己表現 | 英語の歌 |
|---|---|-----------------|-----------------|
| 1 | | | |
| 1 | オリエンテーション、仲間作りのためのコミュニケーションゲーム “Find Someone Who” | | |
| 2 | L1: The Guy With Green Hair | 髪を緑に染めた学生を採用する？ | Seven Steps |
| 3 | L2: Earning Money | お金のためにエスコートになる？ | Can You Jump? |
| 4 | L3: Please Let Me Smoke! | 喫煙者の言い分も聞くべき？ | This is the Way |

| | | | |
|----|--|---------------------|-------------------------------|
| 5 | L4: I Can't Stop! | 中毒でやめられないことがある？ | Head and Shoulders |
| 6 | L5: The Shoplifter | 親友が万引きをしたら？ | London Bridge |
| 7 | 発音演習Ⅰ：DVDを使って、子音と母音を中心に | | |
| 8 | L6: Miss Flower Blossom Beauty Contest | ミスコンは女性差別、それとも女性支援？ | Ring Around the Roses |
| 9 | L7: Who Pays? | デートの費用を払うのはどちら？ | Row, Row, Row Your Boat |
| 10 | L8: Cyber Love | ネット上の恋愛ってあり？ | Twinkle, Twinkle, Little Star |
| 11 | L9: The Boyfriend | 外国人の恋人ってあり？ | Eency Weency Spider |
| 12 | L10: Living Together Before Marriage | 結婚前の同棲ってあり？ | The Farmer in the Dell |
| 13 | 発音演習Ⅱ：DVDを使って、リズムとイントネーションを中心に | | |
| 14 | 英語の歌のプレゼンテーション（1人2曲） | | |
| 15 | 期末試験と総括、授業評価アンケート | | |

(5) 評価の方法

- ・毎回の単語と音読のテスト（30％）～ 英単語10語を書く。ペアで140 wpmの指定時間内で音読し、できなかった場合は休憩時間に教師の前で再度音読する。
- ・英語の童謡のプレゼンテーション（20％）～ 児童の前で一緒に英語の歌を歌うつもりで指示もすべて英語で行う。英語の歌を上手に歌うというよりも児童と楽しく英語の歌を歌えるかどうかを評価する。
- ・期末試験（50％）～ リーディング・リスニング・ライティングの問題と解答は全て英語である。努力帰属を高めるために、学習した10のレッスンを全て出題する。

(6) 教材

- ・教科書：Richard R. Day, Junko Yamana. (1999) *Impact TOPICS*. Longman.
～ 話題が学生の興味・関心を引くものであり、「学生の興味・関心を引き出すようなトピックの提示→それについての4人の異なる意見の提示→自分の意見を言う・書く」の学習サイクルがうまく仕組みられている教科書である。
- ・英語の歌：『Singing with Actions ～よいこのあそび歌～』（1984）ソニー株式会社
～ 幼児向けの英語の童謡に振り付けをつけたもので、楽譜もシンプルなため、英語初心者にもわかりやすい。
- ・発音 DVD：静哲人（2007）『英語発音の達人ワークアウト「English あいうえお」』ジャパンライム～ 大学生の帰国子女をモデルにして面白いアイデアで発音の練習ができるDVDであり、学生に大変好評である。発音を耳で確認すると同時に、口元をアップにした映像を見て視覚で確認することができるため、大変理解しやすい。

後 期

(1) 授業の目標 前期と同じ

(2) 授業の概要

前期に引き続き、ディスカッションのトピックとなるような話題を含む200語程度の英文を聞

いたり、読んだりした後に、内容の理解を深め、音読練習（目標は1分間に140語）をする。そして、その話題についての多様な意見を聞くことにより、自分の意見を話したり、書いたりする。また、1年間の英語学習の仕上げとして英語の絵本を教材にして、それをスキット（寸劇）にしてグループで発表する*。なお、リスニング力養成のため、授業の大半を英語で行う。

* 後期の ESP 活動はいろいろな可能性を模索するために、2006年度は英語絵本の翻訳、2007年度は英語絵本の翻訳と朗読、2008年度は英語アニメの吹き替え（ダビング）、2009年度は絵本の英語劇を実施した。

(3) 到達目標（観点別行動目標）

1. 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
2. 日常生活や社会生活における話題についての200語程度の英文を聞いたり、読んだりして、概要や要点が理解できる。
3. 日常生活や社会生活における話題についての200語程度の英文を、1分間に140語程度の速さで、聞き手に意図が伝わるように音読できる。
4. 日常生活や社会生活における話題についての多様な意見を聞き、基本的な語彙や文法を用いて自分の考えを話したり、書いたりできる。
5. 英語の絵本を素材としたスキットにおいて、自分の役柄を英語で適切に演じることができる。

(4) 授業計画

| | 教科書 | 自己表現 |
|----|------------------------------|--------------------------|
| 1 | L11: Housework | 家事をするのは夫、妻？ |
| 2 | L12: Confused | お金持ちの中年男が若い美女と結婚してうまくいく？ |
| 3 | L13: Fan Worship | パラサイトの娘が趣味に浪費してもよい？ |
| 4 | L16: Ben and Mike | 同性で仲良くするのはどこまでOK？ |
| 5 | L17: Close Your Eyes and See | もし目が見えなくなったら？ |
| 6 | L18: Dangerous Friends | 友達を作るためには飲酒もするべき？ |
| 7 | L19: My Pet Peeve | あなたにとって許せない悪いマナーは？ |
| 8 | L20: Why Save Animals? | 絶滅危惧動物は本当に保護すべき？ |
| 9 | L21: I Hate School! | 大卒の学歴は必要か？ |
| 10 | L23: Please Help | ホームレスを助けるために募金すべき？ |
| 11 | 英語絵本の鑑賞とスキットのグループ分け | |
| 12 | 英語スキットの練習(1) ～グループ活動 | |
| 13 | 英語スキットの練習(2)とリハーサル ～グループ活動 | |
| 14 | 英語スキットの発表 | |
| 15 | 期末試験と総括、授業評価アンケート | |

(5) 評価の方法

- ・毎回の単語と音読のテスト（30%）～ 前期と同じ。
- ・英語スキットのプレゼンテーション（20%）～ 絵本を脚本化した内容のスキットを一人一

役のグループ活動として演技したものを表現力を中心に評価する。

- ・期末試験（50％）～ 前期と同じ。

(6) 教材

- ・教科書：Richard R. Day, Junko Yamanaka. *Impact TOPICS*. Longman. 1999
- ・絵本（2006年度）：“Puss in Boots” “Sleeping Beauty” “Jack and the Beanstalk”
- ・絵本（2007年度）：“Guri and Gura’s Playtime Book of Seasons” “Big Beanie’s Bea”
“Good Evening, Dear Moon” “The Giving Chair” “I Don’t Want to!”
“Wake up, Hippo!” “Groompa’s Kindergarten” “Elephee’s Walk”
“Balloon Cat” “Amy and Ken Visit Grampa”
- ・英語アニメの吹替え（2008年度）：
“We Can Do Anything” “A Stray Cat in Space” “What’s Cooking, Mom?”
- ・英語スキット（2009年度）：“Blue Seed” “Elephee’s Walk”

5. 授業の流れ

授業は大半（60～80％）を英語で行っており，その流れは毎時間ほぼ同じである。その一例として Lesson 8 “Cyber Love” の学習指導案を以下に示す。

| 分 | 学習過程 | 生徒の活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|----|-------------------------------------|---|--|--|
| 1 | 挨拶 | 英語で挨拶する。 | 英語学習の雰囲気を作る。 | |
| 10 | 前時の復習 (7課) | ①本文を教師についてシャドーイングする。(140 wpm) ②ペアで音読テストをする。(140 wpm) ③単語テストをする。(10問) | - 140 wpm の速さで音読させる。 - 1 m 離れて，大きな声で音読させる。 - ペアで答合わせをし，その場で確認する。 | - 140 wpm で音読できたか。(不合格者は休憩中に教師の前で音読する。) - 7問以上できたか。 |
| 70 | 本時の内容 (8課) 休憩 5分 含む | ① 今日の話題について oral introduction を聞き，スキーマを活性化させる。 ② Getting ready - ペアで3つ質問し，答える。 ② Understanding the topic - CDを聞いて空欄に単語補充。 - 概略を問う質問に答える。 - handout を使って内容理解。 - vocabulary drill (日→英)。 - 音読をする。 教師について repeating → 教師について shadowing → CD について感情を込めて repeating → ペアでロールプレイ ③ What do you think? - 4人の意見を dictation する。 - それぞれの意見に賛成か，反対かを○する。 ④ Thinking about the topic - ポイフレンドに求める8項目について，重要度を1～3 | - 学生の理解できる英語で導入する。 - 自分の意見を恥ずかしがらずに言わせる。 - まず，話の概略や要点をとらえさせる。 - handout 使用時のみ正確な内容理解のために日本語を使う。 - テンポよく，ゲーム性を取り入れて音声に馴染ませる。 - 1回目の repeating は音声を確認するための音読で，2回目の shadowing は 140 wpm の速さで音読させる。3回目は感情を込めて音読させる。 - 全文ディクテーションは難しいと思われるときは穴埋め形式でさせる。(学生の学力にあわせてタスクの負荷を調整する。) | - テンポよく，暗記して言えたか。 - 140 wpm で音読できたか。 - 感情を込めて音読できたか。 - 1回のリスニングで7割程度聞き取れたか。 |

| | | | | |
|---|------|--|--|--------------------|
| | | でランク付けする。 - 結果について項目ごとに挙手。 - 自分にとって最も重要な項目は何かについて、ペアで日本語で話し合う。 ⑤ Express yourself (自己表現) - ボーイフレンドに求める最も大切なものと、その理由を英語で書き、ペアで発表する。 | - 結果を全員で共有する。 - 日本語でペアで話し合うことにより、英語が苦手な学生でも英語活動に入りやすいようにし、次の英作文の活動への橋渡しとする。 - 机間指導して援助する。 - いい意見を全体で共有する。 | - 自分の意見を英語で表現できたか。 |
| 8 | 英語の歌 | - Twinkle, Twinkle, Little Star を動作をつけながら歌う。 | - 慣れてきたらペアで向き合って相手を意識して歌わせる。 | - 表情豊かに楽しくできたか。 |
| 1 | まとめ | - まとめを聞き英語で挨拶する。 | - 本時のまとめを英語でする。 | |

II. 動機づけ理論

大学や短期大学における教養科目としての英語の授業には、さまざまな受講動機を持った学生が存在する。中学校・高等学校での6年間の英語学習の延長線上にいる学生たちの英語力には、1クラスの中でさえ大きな個人差がある場合も多い。その科目が卒業必修であればなおさら、英語に興味がない、もしくは英語が嫌いな学生や苦手な学生が数多くいる場合もありうる。近年、大学生の学力や学習意欲の低下が報告されるようになるにつれて、このようにさまざまな学生がいる状況において、英語学習に興味を持たせ、学習を維持できるような授業を行うことが、英語教師にますます求められるようになってきている。

Dörnyei (2001a) が示唆しているように、実際、たいいていの場合、動機づけが十分であれば、学習者は言語適性や他の認知特性の優劣に関係なく、L2の実用的な知識を身につけることができるということを多くの教師は経験知から知っている。動機づけ理論の中でも Dörnyei (1994) は、L2動機づけを、言語レベル、学習者レベル、学習場面レベルの3つのレベルで説明している点が興味深い。この学習場面レベル (LEARNING SITUATION LEVEL) に含まれる授業特有の動機づけ要素 (Course-specific motivational components) として、(授業に対する) 興味 (Interest)、(個人のニーズに対する授業の) 関連性 (Relevance)、(成功の) 期待 (Expectancy)、(結果についての個人の) 満足感 (Satisfaction) の4つを挙げている。つまり、授業の中で「楽しい」「面白い」と思わせて学生の興味・関心を引き、「わかる」「できる」という期待感や満足感を感じさせることによって動機づけを高めることができると考えられる。また、Dörnyei (2001b) では動機を内発的動機と外発的動機に分けて次のように定義している。内発的動機とは、楽しみや満足感を得るために行われ、他の何かのためではなくそれ自体のために行われた行動を引き起こす動機であるのに対して、外発的動機とは、何らかの目的を達成する手段として、または、報酬を得る、罰を逃れるなどの道具的な目的を果たすための行為として行われる行動を引き起こす動機である。前述の4つの授業特有の動機づけ要素のうち、興味、期待、満足感は前者の色合いが強く、関連性は後者の色合いが強いと考えられることから、教師としては内発的動機を高めるような取り組みを授業で行うべきであると考えられる。

Ⅲ. 学生による授業評価の結果

1. 学生による授業評価の概要

本学でも他の多くの大学と同様に、FDの一環として前・後期の終わりに全学的に学生による授業評価を実施している。学生が正直に感じたままを評価できるように、授業評価は成績評価とは全く関係のないものであることが説明され、教員の存在が結果に影響を及ぼすのを避けるためにアンケート用紙の回収は学生によって行われる。調査方法は、質問紙を用いてマーク・シート方式（5件法）と自由記述によって回答するもので、設問項目は学生の自己評価についての3項目と授業評価についての10項目の合計13項目から成る。本研究では授業そのものについての評価を研究対象とするので、学生の自己評価についての3項目は取り扱わない。授業評価についての10項目の内容は次の通りである。

- ① 授業の目標がどこにあるか授業の中で明確に理解できた。
- ② 授業の内容はシラバスの内容とおおむね対応している。
- ③ 授業の進度は適切である。
- ④ 授業内容の難易度は適切で、理解可能な範囲であった。
- ⑤ 先生の話し方・口調がはっきりとしている。
- ⑥ 先生による板書や資料の提示などわかりやすいものであった。
- ⑦ 先生は、授業準備をよくしていると感じられる。
- ⑧ 先生は、情熱を持って授業をしていると感じられる。
- ⑨ 先生は、授業を静かに保つ配慮をしてくれている。
- ⑩ 総合的に判断して、この授業に満足した。

これらの10項目のうち、①～⑨までは観点別評価の項目であるが、最後の⑩は総合的な評価項目となっており、本研究における「授業満足度」はこの⑩を指している。

ここで、文部科学省（2010）によると全国の大学で多く設定されている上位5項目は、①授業のわかりやすさ（708大学）、②担当者の熱意・意欲（639大学）、③授業に対する興味・関心（637大学）、④担当者の話し方、声のボリューム（612大学）、⑤シラバスと実際の授業の関係（574大学）となっている。これらのうち、「①授業のわかりやすさ」については、本学の評価項目「④授業内容の難易度は適切で、理解可能な範囲であった。」と似ているようにも思われるが、前者は「わかりやすい授業を行うことができる」という授業者の教授能力の一つを評価するものであり、後者は授業内容の難易度そのものを評価するものであるから違う評価項目として認識すべきである。また、「③授業に対する興味・関心」については、本学の評価項目には相当するものがなく、これら①と③の欠如の問題点についても自由記述の分析を通して示唆する。

2. 学生による授業評価の結果

表1は、評価項目⑩の授業満足度の4年間8学期における推移である。初めて担当した2006年前期の授業満足度は4.8（短大平均4.3）という高い結果となった。同期の観点別評価を含む10項目の結果をグラフにしたものが表2であるが、これだけでは授業満足度に高い評価をもたらした要素が何であるのかを特定することは難しい。

そこで自由記述が参考になるが、前述のDörnyei（1994）に基づいて「(授業に対する) 興味」「(個人のニーズに対する授業の) 関連性」「(成功の) 期待」「(結果についての個人の) 満足感」

表1 総合的な授業満足度

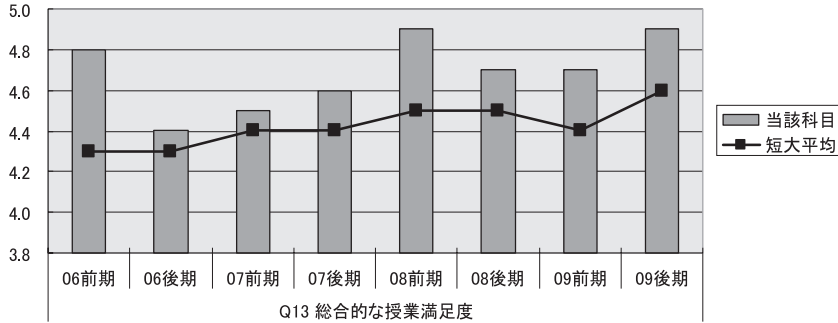
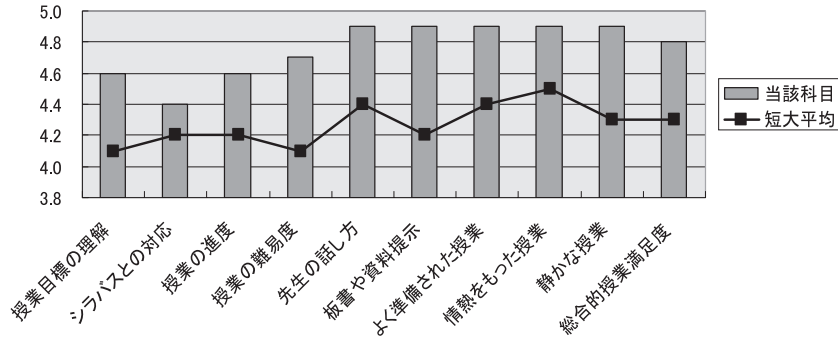


表2 2006年度前期の授業評価の結果



の4つに分類し、該当箇所のように下線を引いた。また、自由記述の内容は原文のまま、一部ではなく全回答を掲載している。

- ・興味：「楽しい」「面白い」など → で表示
- ・関連性：「英語の歌」「絵本」「スキット」などのESP関連 → ~~~~で表示
- ・期待：「分かりやすい」など → =====で表示
- ・満足感：「勉強できた」「よかった」など → -----で表示

【2006年度前期】 受講者39名、自由記述の回答者17名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|-------|--------|-------|--------|----------|
| 9 | 8 | 3 | 7 | 4.8 |

・先生の授業はすごく楽しく毎回楽しみにしています。説明も詳しく、わかりやすかったのでよかったです。
 授業の進捗もちょうどよかったです。

・英語の歌を楽しく歌えてよかった。授業も分かりやすく、とても勉強になった。

・すごく分かりやすかったです。読むのは苦手だけど楽しかった。

・この授業が好きです。いろいろな海外の雑学を入れながら話してくれるのがよい。

・とても楽しい授業でした。小テストの問題を言うスピードが少し速かったです。

・英語の授業がとてもたのしかった。授業内容もよかった。

・いろいろなことをするので楽しいです。 ・英語を楽しく勉強することができました。

- ・日本で使用している教科書ではないので、内容を楽しみながらできました。
- ・授業の最後で英語のうたを歌いながら踊ったりするのは、とても楽しいし、役立つと思いました。
- ・英語の手遊びを知れてよかった。
- ・実際に、将来使えそうな英語のあそび、うたなども取り入れて下さり、楽しみながら授業に取り組みました。
・歌がおもしろかったのもっとやってほしいと思います。
- ・英語の歌を紹介して下さいましたことがとても嬉しかったです。
- ・子どもの歌を英語で知れるのでとてもうれしい。 ・子どもの歌をたくさん知ることができた。
- ・休けい時間もとってあり、集中して授業に受けた。
- ・途中で休けいをとってくれるので勉強しやすい。 ・もっと実際に使えるような英語をしたいです。

この自由記述の分類から、「興味」と「関連性」の動機づけ要素が学生から強く支持された結果、授業満足度が上がったことが推定できる。

次に、2006年度後期は授業満足度が4.4（短大平均4.2）に下がっているが、前期と後期の授業内容の違いはESP活動だけであることから、後期のESPとして行った絵本の翻訳が前期に行った歌ほどは高く評価されなかったことが影響していると考えられる。2年目の2007年度前期は、授業満足度が4.5（短大平均4.4）と初年度の前年度よりも下がる結果となった。これは教師の病氣入院のため授業のペースが崩れ、復帰後も体調不良のため前期のような活気のある授業ができなかったことが影響している。後期は前年後期と同様に絵本の翻訳を行ったが、絵本の種類を増やす等の改善を行ったために授業満足度は前年度よりも向上し4.6（短大平均4.4）であった。この2年間の授業評価の結果を見ても、学生の授業満足度を高める1番の要素は、「興味」ではないかと考えられる。そこで、2008～2009年度においても、学生の興味をかきたてることを念頭においた授業実践を推進していった。その結果が、表1に見られる授業満足度4.7と4.9という高い数値での安定と、以下に示す自由記述における「興味」を表す回答数の多さに表れていると考えられる。

【2006年度後期】 受講者39名、自由記述の回答者10名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|---|--------|-------|--------|----------|
| 6 | 4 | 1 | 1 | 4.4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・いつもこの授業を楽しみにしていました。とても楽しい授業でした。 ・楽しかったです。 ・たのしい英語の時間でした。1年間、ありがとうございました。 ・授業内容がたのしくて意欲的にとりくめた。 ・もっと英語の勉強が became したいです。 ・先生の授業は、わかりやすく楽しくて保育の現場でも役立つようなこともやってくれてよかったです。 ・退屈だった。絵本は楽しかった。 ・保育に関する事もしたので楽しかったです。 ・絵本のよみきかせたのしかったです。 ・先生にあこがれます。個人的にお話してみたかったです。 | | | | |

【2007年度前期】 受講者38名、自由記述の回答者7名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|---|--------|-------|--------|----------|
| 2 | 2 | 2 | 2 | 4.5 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・英語を楽しく学べました。 | | | | |

- ・予習プリントがわかりやすかった。教科書もおもしろい内容で勉強しやすかった。
- ・英語の歌をたくさん知れた。口に出してくり返す事で単語を覚えれた。
- ・英語の歌が楽しかった。 ・分かりやすかったです。体調に気をつけて下さい。
- ・間は休憩を入れてくれるので集中力がとぎれて授業をむだにすごさずによかった。
- ・レッスンごとの予習プリントがあったので、予習しやすかった。

【2007年度後期】 受講者38名, 自由記述の回答者0名

授業の関係で回答時間がいつもより短かったためか, 自由記述は回答ゼロであった。

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|-------|--------|-------|--------|----------|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 4.6 |

【2008年度前期】 受講者38名, 自由記述の回答者25名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|-------|--------|-------|--------|----------|
| 13 | 8 | 5 | 7 | 4.9 |

- ・先生の授業はととても面白いです。元々英語は好きですが、もっと好きになりました(歌などをうたって。) 今度、先生と一対一で会話してみたいです。
- ・いつも同じように進めていくので次に何をするのがわかって良かったです。先生がいつも笑っていて授業がすごく楽しかったです。 ・歌楽しかったです。
- ・発音のDVDで学習したりしてわかりやすかった。たくさんの英語の歌が覚えられてよかったです。
- ・合間に楽しい話をしてくれておもしろく授業に参加できた。
- ・先生のおかげで英語が楽しくておもしろくてとても理解することができて良かったです。
- ・英語のうたを覚えるのは大変だけど、役に立ちそうなのでがんばろうと思った。
- ・英語の説明を丁寧にして下さり、とてもわかりやすかったです。
- ・先生の授業はとても分かりやすく、英語の歌もやっていたので為になった。
- ・とても楽しく授業参加することができてよかったです。
- ・この授業を受けて、英語が好きになった。
- ・すごく楽しい授業でした。英語での授業に少し不安を感じていましたが、とても集中できる授業でした。 ・楽しかったです。テキストの内容も、先生の話も。
- ・プリントも分かりやすいし、発音ではおもしろいビデオを見たりと、興味が沸く授業でした。
- ・私は昔から英語が好きですが、田辺先生の授業はととても楽しくて、より好きになりました。
- ・テキストの内容がとてもおもしろく、先生の説明もわかりやすくて、とても楽しかった。
- ・英語を楽しくできた。 ・英語の歌とか入っていて楽しかった。
- ・速読の練習も出来て、読むのが早くなりました。テキストも内容が楽しいです。
- ・授業内容もおもしろくてよかった。とても分かりやすかったです。
- ・英語の歌もあって楽しく英語をやることができた。
- ・英語の歌がとっても楽しいです。また、苦手な私にも理解できる英語で良かったです。ありがとうございました。 ・good, excellent. ・説明を丁寧してくれ、訳も、手助けをしてくれる。
- ・今まで文法ばかりで発音にはあまり注意していなかったけど、この授業を受けて、気にするようになってきた。

【2008年度後期】 受講者38名, 自由記述の回答者17名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|--|--------|-------|--------|----------|
| 11 | 2 | 2 | 5 | 4.7 |
| <p>・説明もよく分かり楽しい話をまぜてくれるのですごく良い授業だと思っています。</p> <p>・英語でおもしろい話をして下さって楽しいです。</p> <p>・英語をしゃべるのが楽しいと感じられる授業でした。 ・いつもたのしいです。</p> <p>・一年間ありがとうございました。毎回楽しく授業を受けられました。</p> <p>・英語は苦手だったけど、授業はすごく楽しかったです。ありがとうございました。</p> <p>・分かりやすくて、楽しい授業です。 ・今年もよろしくお祈りします。</p> <p>・内容もとてもおもしろく、先生の説明もわかりやすかった。</p> <p>・楽しく英語を学ぶことができた。 ・いつも楽しく授業できるので英語も先生も好きです。</p> <p>・先生の授業はテキストが普通とは違って内容が面白いです。毎回集中できます。</p> <p>・ダビングの授業が特に面白かったです。 ・ビデオのふきかえができて楽しかったです。</p> <p>・外国の話をしてくれ文化のちがいがいなどが分かった。</p> <p>・発音が苦手なので、毎回ある、小テストが少し辛かったけど、勉強になったと思う。</p> <p>・小テストをするので、英語を勉強する時間がふえるので、よいと思う。</p> | | | | |

【2009年度前期】 受講者26名, 自由記述の回答者19名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|--|--------|-------|--------|----------|
| 10 | 3 | 4 | 11 | 4.7 |
| <p>・楽しくできた。先生の話もおもしろい、進むペースもちょうどよかった。</p> <p>・コミュニケーションの範囲なので英語が苦手な私でも楽しめてとても分かりやすいです。</p> <p>・楽しかったです!! ・毎回楽しみでした。 ・楽しかったです。</p> <p>・普段使うことのない子どもと一緒にうたえる英語の歌をたくさん知ることができてよかった。改善すべき点はない。 ・楽しく英語を学ぶことができたので良かった。</p> <p>・英語はもっと嫌なものかと思っていたけれど、先生が優しくとても受けやすかった。</p> <p>・先生がはっきりとしていてわかりやすかった。楽しく授業をすることもできて、よかったと思う。</p> <p>・毎回単語テストをすることで単語を覚える習慣がついたこと。歌をうたったりして楽しいし、おもしろいDVDを見てたのしく発音を学べてよかったです!</p> <p>・わかりやすくてとても良かった。 ・わかりやすく、一つ一つが丁寧ですごく良かった。</p> <p>・発音練習ができてよかった。音読と小テストは毎回プレッシャーだけど授業は楽しかった。</p> <p>・きちんとシラバス通りに進められていて、いつも授業の進め方が一緒に次の授業では何をするなども分かったのよかったです。</p> <p>・英語の発音をしっかりと練習することができました。英語の歌をたくさん知ることができてよかったです。 ・歌をみんなで歌うのは楽しい。</p> <p>・英語の歌や発音のDVDが楽しかったです。英文も速く読めるようになれました。</p> <p>・毎回同じペースで、内容も決まっているから授業を受けやすくいい。</p> | | | | |

【2009年度後期】 受講者26名, 自由記述の回答者7名

| 興味の回答 | 関連性の回答 | 期待の回答 | 満足感の回答 | 授業満足度の平均 |
|--|--------|-------|--------|----------|
| 3 | 5 | 0 | 0 | 4.9 |
| <p>・授業がたのしくてやりやすかったです。とてもスムーズに進めてくださりありがとうございました。 ・楽しく学べた。 ・スキット楽しかったです!! ・skitが楽しかった。 ・スキットがとても楽しかったです! ・スキットの発表が楽しかった。 ・劇が楽しかった。 1年間楽しい授業ありがとうございました。</p> | | | | |

ま と め

短期大学保育科約40名を対象として行った本実践を一般化することはできないが、次の3点をまとめとして示唆する。

まず、学生による授業評価における授業満足度を高めるためには、Dörnyei (1994) のL2 動機づけモデルにおける授業特有の4つの動機づけ要素(興味、関連性、期待、満足感)に注目して授業を行うことが効果的であり、中でも「(授業に対する) 興味」をかきたてることが最も効果的であると考えられる。また、「(個人のニーズに対する授業の) 関連性」も授業満足度を高めるのに効果的な要素であることから、教養科目の英語であっても、保育科における歌や絵本に相当するような適切なESPを導入することが推奨できる。例えば、日本文学科では海外で評判になっている日本文学の英語版を扱った授業を行ったり、家政学部では食物・被服・住居に関する英語を扱った授業を行ったりしてはどうだろうか。最後に、本学の授業評価の評価項目には他大学で最も多く取り入れられている「授業に対する興味・関心」「授業のわかりやすさ」の2項目がないことは前に指摘した通りであるが、本研究の結果と照らし合わせてみてもこの2項目は取り入れるべきであり、そのために項目が多くなりすぎるようであれば、他の項目を精査することが望ましいのではないだろうか。

最後に、調 (2008) は東京農工大学における授業満足度を二時点と比較した結果として、授業アンケートに基づく授業改善の効果は、特に満足度が低い科目において顕著であるが、もともと満足度の高い科目において、さらに満足度を高めるようには必ずしも機能していないと報告している。そして、満足度が高い科目については、授業アンケートが教員の自主的な改善意欲を阻害する可能性もあるので、これらの科目に対して介入を慎むべきかもしれないとまで言及している。しかし、本実践科目の授業満足度は一番低い数値でも5点満点で4.4(短大平均4.3)と高い部類に入るが、実践者としては全学体制による学生による授業評価が授業改善に役立ったと考えている。学生に授業を正しく評価する能力があるかどうかという問題もあるが、学生による授業評価が授業改善の一助になりうることは確かであろう。

参 考 文 献

- Dörnyei, Z. (1994) Motivation and motivating in the foreign language classroom. *Modern Language Journal*, 78, 273-284.
- Dörnyei, Z. (2001a) *Motivational Strategies in the Language Classroom*. Cambridge University Press [米山朝二, 関昭典訳 (2005) 『動機づけを高める英語指導ストラテジー-35』大修館書店]

Dörnyei, Z. (2001b) *Teaching and researching motivation*. Harlow, UK: Longman

桐生直幸 (2008) 「大学の英語授業における学生の評価要因の分析—英語に対する興味に焦点を当てて—」『鎌倉女子大学紀要』第15号. 63-73.

調麻佐志 (2008) 「東京農工大学における授業満足度の二時点比較」『大学教育ジャーナル』第4号. 47-50.

村野井仁 (2006) 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店

文部科学省高等教育局大学振興課 (2010) 『大学における教育内容等の改革状況について』

山地弘起 (2007) 『授業評価活用ハンドブック』玉川大学出版部